

2022 年 2 月 4 日

各位

ギャランツジャパン株式会社
Great Fortune International Development Limited
Ace Frontier Limited

象印マホービン株式会社への株主提案に対する 議決権行使助言会社の賛否推奨レポートについての当社らの見解

ギャランツジャパン株式会社、Ace Frontier Limited、及び Great Fortune International Development Limited（以下、総称して「当社ら」といいます。）は、象印マホービン株式会社（以下、「象印」といいます。）が本年 2 月 17 日に開催予定の第 77 期定時株主総会（以下、「本株主総会」といいます。）の第 6 号議案となっている当社らの株主提案（以下、「本株主提案」といいます。）に対して、議決権行使助言会社である Glass Lewis & Co., LLC（以下、「グラスルイス」といいます。）が「反対」を推奨する旨のレポートを発行した事実を確認いたしました。

これを受け、本株主総会の第 5 号議案の「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の更新の件」に対してグラスルイスが「反対」を推奨した件と合わせまして、当社らの見解を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 第 6 号議案（株主提案）「取締役（監査等委員である取締役を除く。）2 名選任の件」

当該議案につき、グラスルイスのレポートにおいて「反対」が推奨されましたことは、大変遺憾に存じます。

当社らは、象印が近年の減収・減益の状況を打開するためには、象印の強みをより一層活かして業績を改善していく必要があると認識しており、そのためにもグローバル市場へのより積極的な進出が不可欠であると考えております。しかし、象印の現経営陣のスキルマトリックスにおいても示されたように、「国際的経験」を有する社外取締役（5 名中 1 名）が相対的に少ないように見受けられますので、グローバル市場への深い理解と知識、高い能力、豊かな経験を有する人員を取締役会の一員として迎え、今までにない新たな視点や多様な意見を経営戦略に反映してグローバル化を推進していく必要があると考えております。

以上から、当社らとしては、株主提案の取締役候補者 2 名は、象印の企業価値及び株主利益の最大化に最適な人材であると確信しておりますので、多くの株主の賛同を得て選任されることを切に希望致します。

2. 第 5 号議案 「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の更新の件」

当社らは、象印株式を保有する者として、外部からの不合理な脅威が不在の中で当該議案の

買収防衛策（以下、「本買収防衛策」といいます。）が導入されることは象印の企業価値及び株主共同の利益に資するものではないと表明しておりましたので、今般、グラスルイスから当該議案に対して「反対」の推奨がなされたことについて、これを妥当な判断であると受け止めております。

なお、当社らが本買収防衛策の反対に至った理由は以下の通りです。

- ① 本買収防衛策の導入により、市場はその発動の可能性を常に割り引いて評価することになるため、株式希釈化の懸念から株価が低迷するリスクの方が高いと思われること。
- ② 本買収防衛策の導入により、経営改善の自己規律が緩み、企業価値の向上が実現されない可能性があること。特に、象印は、創業家関係者の株式保有割合が約 22%、加えて、持ち合い株式の割合が少なくとも 7.5%程度（公表情報に基づく当社ら試算によります。）であり、少なく見積もっても 30%前後の安定株主が存在しています。このような状況下における本買収防衛策の導入は、過剰な防衛行為であって、導入のメリットに比して、上記デメリットが過大と思われること。

以上から、当社らとしては、第 6 号議案（株主提案）については多くの株主の賛同を得て可決されるとともに、第 5 号議案（買収防衛策）の更新には反対の議決がなされることを希望いたしております。

・当社らについて

Ace Frontier Limited は、広東格蘭仕集团有限公司（以下、「ギャランツ社」といいます。）の副会長である Leung Wai Keung（梁恵強）が役員を務める投資ファンドであり、Great Fortune International Development Limited は、ギャランツ社の会長兼 CEO である Leung Chiu Yin（梁昭賢）が役員を務める投資ファンドです。また、ギャランツジャパン株式会社は、ギャランツ社の日本における子会社です。

以上